

衆生のきずなを求めて!

# NPO 現代座

2014 年 8 月 1 日 発行  
(通巻 462 号)

## 現代座レポート 59

- ・武蔵野の歌が聞こえる 川崎平右衛門プロジェクト (1)
- ・上演サポーター結成 (2)
- ・本格的な稽古始まる (3)
- ・NPO 現代座を支える人々 第 16 回 福沢達郎さん (4)
- ・遠い空の下の故郷 / 日本力行会で講座 (5)
- ・3F 小ホール公演 (6)
- ・現代座会館・活動日誌 (7)
- ・お知らせ (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



川崎平右衛門プロジェクト 事務局メンバー

武蔵野の歌が聞こえる  
川崎平右衛門プロジェクト  
地域の協同で芝居を創ろう！

九月十一日から十五日まで、現代座ホールで合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」が上演されます。

これは「シニアSOHO小金井」と現代座の協同企画です。「シニアSOHO小金井」は主に退職した男性が集まっているNPOで、シニアの豊かな経験と能力を活用し、自己実現と生きがいをもたらす、地域社会の活性化に寄与しようと色々な活動を行っています。小金井市の教育委員会と協働して「定年後の地域デビュー講座」なども行っています。

四年前、当時「シニアSOHO小金井」の代表だった大橋さんから「地元の劇団なんだから地元の話を芝居にしてくださいよ」と提起されました。それがわたしたちの住む武蔵野台を開いた「川崎平右衛門」でした。それは現代座だけではできないので、いっしょに「川崎平右衛門プロジェクト」を立ち上げました。

シニアSOHOには芝居の経験者はいませんが、江戸の歴史に興味のある人たちがいます。現代座は江戸の歴史は分からないことばかり。とにかくいっしょに勉強しようと、二〇一〇年五月から毎月集まって勉強会を続けてきました。

勉強会を始めた翌年、二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起こりました。

実は、江戸幕府が不毛の大地と言われた武蔵野台に八十二カ村に及ぶ大新田を開発する必要があったのは、宝永四年の東南海トラフ大地震で歴史上最大の災害が起こり、農業を復興しなければならなかったからでした。しかし、それに先立つ元禄時代はバブル景気でうかれ、幕府の財政は破綻しかかっていました。現代と同じことが起こっていたのです。

幕府の新田開発は十四年たっても挫折の繰り返しで、いよいよこの世の末かと思われたとき、一人の農民指導者、川崎平右衛門が現れ、見事新田開発を成し遂げます。

「力のある者は力を出し、知恵のある者は知恵を出し、強い者も弱い者も力をあわせて自分たちの村をつくらう」

彼は人々の協同の力を引き出すことによって大事業を成し遂げたのです。今の私たちにとっても大事なテーマです。

## 上演サポーター結成



2014年4月23日第1回打ち合わせ会議 現代座会館2F

### ◆呼びかけてみたら

シニアSOHO小金井とNPO現代座は「平右衛門プロジェクト」を作って準備してきました。そして今年の春、いよいよ台本づくりが本格的になると同時に、どうやって多くの人に観てもらうかを話し合いました。すべてが目の前の利益中心の時代に、はたして心の文化として地域の歴史に関心を持ってくれる人がどれほどいるだろうかと不安でした。

上演に協力してくれる俳優やスタッフの確保も大切ですが、なによりも劇場に足を運んでくれる市民への呼びかけに動いてくれるサポーターが必要です。

「どんなことでもいいから協力してくれる人をお願いしよう」ということになり、それぞれが周りの人に声をかけて「武蔵野の歌が聞こえる・上演サポーター」を作ろうということになりました。

プロジェクト責任者の塚田さんと織壁さんは「小金井史談会」という歴史に興味のある人たちのメンバーでもあります。そこで史談会の方や「シニアSOHO」のプロジェクトには参加していない人たちに呼びかけました。現代座ではいつも応援してくださる地域の方々にお願いと同時に、武蔵野で農業が始まったお芝居なのだから、何とか農業関係の人にも見てもらいたいし、川崎平右衛門と関わりのある地域やお寺の方にも力を貸していただきたいと呼びかけました。

### ◆心の地域おこし

「上演サポーター」には二十五名の方々が集まって下さいました。早速話し合いが持たれました。劇場に身を寄せ合うということは心の地域おこしです。

「小金井だけでなく周りの地域にも広げていこう」と

か「経費を生み出すために寄付も集めなくては」とか「全戸にチラシを入れよう」など様々な意見が出されました。そして早速それぞれチラシとチケットを持って動きはじめてくださっています。

「シニアSOHO小金井」では独自に市民掲示板へのポスターの掲示を引き受けることになり、また川崎平右衛門についてのホーム・ページの制作がすすめられています。武蔵野新田開発当時の名残りをとどめる地名や通りの名前、公園、お寺などを紹介し、わが地域の歴史に親しみを持って貰おうというわけです。

それぞれが自分の得意なことや力を発揮し、力を合せて準備していけたら、きっと素晴らしい『武蔵野の歌が聞こえる』が出来上がると思います。



上演作品の内容についての説明会

シニアSOHO小金井「平右衛門プロジェクト」ホームページ

<http://heimon.org/siry01.html>

# 本格的な稽古始まる

合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』は七月四日から本格的な稽古に入りました。

現代座の芝居はごく普通の人々の日常生活を描いたものが多いのですが、今回は全く違って語りと歌と芝居の構成劇です。出演者は一人で何役も演じ、全員で合唱したり、語ったりで次々と場面が展開します。

「江戸時代の話ではあるけれど、災害の試練を乗り越える現代の復興の歌にしよう」という演出の意図が生かせるよう、セツトも衣装も工夫が必要です。

いったんは打ちひしがれた農業者たちが、平右衛門という人物と出会ったことから互いに助け合い、手を取り合って武蔵野台に広大な畑を拓き、玉川土手に桜を植え、貧しいなりに心豊かな暮らしの基礎を築いたのです。その道のりを生き生きと伝える、そんな劇場にしようと稽古にも熱が入ります。



今村純二



黒澤義之



藤田尚希



中村保好



木の下敬志



八木浩司



みきさたちこ



東志野香



長谷川葉月



矢川千尋



ピアノ・松下菊乃



稽古風景



歌川広重の「江戸近郊八景の内 小金井橋夕照」川崎平右衛門は新田開発だけでなく、奈良の吉野、茨城の桜川から桜の種苗を取り寄せ、玉川上水土手に植樹。この桜並木は後に「小金井桜」と呼ばれ、江戸近郊名所の一つとなる。中央に富士が見える。

## 合唱構成劇

武蔵野台をひらいた川崎平右衛門

# 武蔵野の歌が聞こえる

共同製作

シニア SOHO 小金井

NPO 現代座

脚本

木村 快

会場 現代座ホール

2014年9月 11 (木)		19:00
12 (金)	14:00	19:00
13 (土)	14:00	19:00
14 (日)	14:00	18:00
15 (祝)	14:00	

参加費 一般：3000円 小中高：1000円

※各回 80名の予約制です。事前にお申し込み下さい。

NPO現代座を支える人々

第十六回

## 福沢達郎さん

記 武本英之



福沢達郎  
(ふくざわ・たつろう)

インドネシアの民族音楽ガムラン音楽の演奏・作曲。「カリン」の伴奏・編曲。青山「こどもの城」を中心に音楽遊びのプログラム作りや演奏に長年かかわる。

### 現代座作品への共感

♪ラッタ、タタ、ターン、ラッタ、タタ、ターン。

木村快脚本『蒼い空・友の呼ぶ声』。軽快なピアノのリズムで芝居の幕が開くのをぞ記憶だろう。3年ほど前から各地で断続的に上演がなされてきた。この芝居の曲を作り演奏しているのが福沢達郎さん。通常の芝居だと録音された音楽が流れるが、昨年6月に長野県阿智村清内路で行われた公演では、福沢さん自ら会場の小学校体育館に赴き、初めてピアノで生伴奏した。ピアノの音一本で登場人物の気持ちを表現していく。クライマックスは主人公・太田（今村純二さん演じる）と特攻隊で戦死した友人・山村（声のみ）との会話のシーン。二人の会話を背後から音楽が静かにフォロー、そして、山村の声。

「どんな人間だって時代を超えることはできない。だけど、人間は精一杯自由であるべきだ」

「この辺りのセリフが台本の中で最も印象に残りました」と福沢さん。このセリフが最も光るような音を組み立てていったという。それにしても、福沢さんが創ったこの曲の主旋律は透き通っていて明るいですね。最後に主人公・太田の迷いが吹っ切れて蒼い空に解けこんでいくようです。「清内路の公演では何度もリハーサルしていただき、現代座の皆さんには感謝しています」と福沢さん。

『武蔵野の歌が聞こえる』で苦闘中

福沢さんと現代座・木村快さんとの出会いは、この『蒼い空』が、特攻隊生き残りの俳優、故・江見俊太郎さん主演で行われた1997年に遡る。この時、福沢さんは「快さんの台本を読んで直ぐにメロディが浮かんで来た」という。

木村快さんが小金井市民の有志と4年越して研究を重ねてきた武蔵野新田開発の功労者・川崎平右衛門を描く合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』の曲も今回、福沢さんに依頼された。だが、意外にも「思うようにいかず難航します」との返事。9月11日の初演までに6つの合唱曲と劇中の幾つかのフレーズを仕上げなければならぬ。何度か試作品を提示するも、快さんからは「シンブルで力強く」「富士山爆発の驚愕と恐れを」「村を去る人々のやるせなさを暗過ぎず明るさを忘れずに」等々、宿題と駄目だしの連続という。

福沢さんは快さんの芝居を「物事をごまかさず、しっかりと言い放っているところが好きです」とファン宣言。『武蔵野の歌』について、「台本には、江戸の農民が『協同』のやり方で逆境を乗り越えていく生活の喜びが出

ていて、そこを音でどう表現するか」と福沢さんは熟考する。さあ、どんな曲が完成するか上演が待ち遠しくなってきました。

弱者とともにありたい

福沢さんは現代座には「子供や若い人に開かれていて、彼らに発信していったほしい」と期待する。「江見さん主演の『蒼い空』では、昔若い女子の間ではやっただルーズソックスが例に出ています。今村さん主演の『蒼い空』では、そこが男子がズボンを下げてはく「シバキの話になってます。みんなと同じでない不安なんだという日本人の心理を表現しているわけですが、若い人も入っていただける会話で、もっと若い人にも観てほしいですね」という。

若者・子供への発信を重視する福沢さんの心を重くしているのは、日本では唯一の国立総合児童センターである東京・渋谷区の子供のための総合施設「こどもの城」（厚生労働省所管）が事業仕分けに遭って半年後に廃止されようとしていることである。仲間と約六万人の署名を集め陳情しているが手ごたえがない。「国って何なの？と考えてしまいます」と憤る。

人々に直接訴える演劇や音楽に今求められているのは、弱者とともにあって欲しいという心の響きなのではないだろうか。ア



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

## 遠い空の下の故郷

〜ハンセン病療養所に生きて〜

五月十八日(日)

品川区 戒法寺 大施餓鬼法要

二〇〇一年に熊本と鹿児島島のハンセン病療養所をお訪ねして、入所者の皆さんのお話を聞かせていただきました。二〇〇二年に医療雑誌「いつでも元気」に一年間木村快が『人間復興』のタイトルで連載記事を寄稿するために、何度



語り・木下美智子 演奏・松本真理子

もお訪ねすることになり、お友達としての交流が始まりました。そして、二〇〇六年に療養所の友人の人生を語ることは

社会差別の根源を考えることにつながると思い、うたを交えた語り『遠い空の下の故郷』の小さな上演活動を始めました。「うい予防法」の廃止や国の政策の責任を問う裁判が終結

してから十二年になります。しかし、この小さな語りの活動を続けながら、次第にハンセン病への差別の問題が消えてしまふような恐れを感じています。だからこそやり続けていかなくてはと思っています。

昨年からは松本真理子さんがアコーディオンで演奏してくださることになりました。二人でどこにでも出かけて行くつもりです。

五月には品川にある浄土宗のお寺、戒法寺でこの「遠い空の下の故郷」をやらせていただきました。戒法寺のご住職、谷川岱潤さんは浄土宗東京教区人権同和推進委員長です。昨年の東京教区の人権研修会に私たちの「遠い空の下の故郷」を呼んでくださいました。

「今度は長谷川さんのお寺で出来ませんか？」とお願いしたら、この大施餓鬼法要の中で企画してくださいました。ご先祖へのご供養の法要ですから一時間以内でということ、結局歌の部分のカットしました。ちょっと中身を詰めすぎたかもしれませんが、皆さん一生懸命に聞いてくださいました。

全国十四カ所のハンセン病療養所では現在六、五四二人の方が暮らしておられます。しかし入所者の皆さんが高齢化して、介護の手が足りないことが大きな問題になっています。また中心で活動していらした方が相次いで亡くなるという状況の中でしたので、こんな風にいっしょに考えていただく場をつくっていただけたことは本当にありがたいことでした。

(木下美智子)

## 日本力行会で講座

昨年に引き続き、木村快は練馬区小竹町にある「日本力行会」で講座を行っています。これはブラジルから来ている研修生に、サンパウロ州の奥地にある、日本力行会が中心になって創設した「アリアンサ移住地」の歴史を語る講座です。

今年は色々な事情で力行会の研修生は、力行幼稚園に研修に来ているサンパウロ市出身の金子摩耶さんだけだったので、たまたま日本ウエルネス・スポーツ専門学校に留学中のユバ農場の矢崎夏さんが力行会館に寄宿していたので、いっしょに講義を受けることになりました。

毎年、三回〜四回の講座で明治大正時代の青年たちの話から始まるので大変です。そのために歴史的な写真を中心にしたテキストを作り、日本の

若者でも理解の難しい話を、写真を見ながら語り合うことになりました。

内容を伝えることは大変だけど、木村にとっては、現代のブラジルの若者たちがどんなことを考え、日本社会をどのように見ているかを教えられる貴重な時間になっています。



右奥・矢崎夏さん、手前・金子摩耶さん

## 3F 小ホール公演

3F 小ホールは客席 50 席の小さなホールですが、グランド・ピアノと照明の奥行きを出すために湾曲した幕面を持つクッペル・ホリゾントが設備されています。

NPO 現代座の会員が企画した公演を紹介します。現代座を助けるため、会館を有効に活用しようと企画してくれたものです。

### ぼんぼん組公演「べっかんこ鬼」

五月二九日(木)～六月一日(日) 六回公演

現代座公演の「出会いの街」「約束の水」に出演している会員の矢川千尋さん、八木浩司さんが属している演劇グループ「ぼんぼん組」の公演です。さねとうあきら原作・市来まさみ演出の「べっかんこ鬼」は間抜けで心やさしい鬼と盲目の少女の心の触れあいを描いた面白く、だけど切ないお話。

風たちが歌と踊りでお話を進行します。子どもたちが夢中になって観ていました。見てくれた保育園の先生からは「これはぜひ親子で見たいよね」という感想も寄せられました。



### りんどうの会 「一房の葡萄」他二篇

七月四日(金) 五日(土) 四回公演

企画した杉山龍さんは元現代座劇団員。現在はホール・スタッフの仕事しながら創作を続けています。

今回は朗読者五人による、有島武郎作「僕の帽子のお話し」「小さき者へ」「一房の葡萄」です。

ピアノ、フルートの生演奏を交え、3Fホールの特長であるクッペル・ホリゾントの照明を生かし、お話ごとに違う色で雰囲気を出していました。

後日、街で出会った会員の方から「あの朗読会に参加してから、有島武郎の作品を読んでます」と声をかけられました。新鮮な朗読会だったようです。



### 朗読・映像・うたの夕べ

#### 「ふるさとかえりたい」

七月二七日(日) 一回公演

NPO 現代座の監事武本匡弘が参加する「ビキニふくしまプロジェクト」は、「ビキニを見れば、ふくしまが見える」を合い言葉にスライド・トークをしています。

フォトジャーナリスト島田興生さんは、ビキニ水爆実験で被ばくしたマーシャル諸島のリミヨおばあちゃんを中心に、人々の苦難の歴史を四〇年にわたって撮り続け、「ふるさとかえりたい」というドキュメンタリー絵本が生まれました。その映像と朗読の会でした。

### 「ふるさとかえりたい」朗読・映像・うたの夕べ

第24回 ビキニふくしまプロジェクト

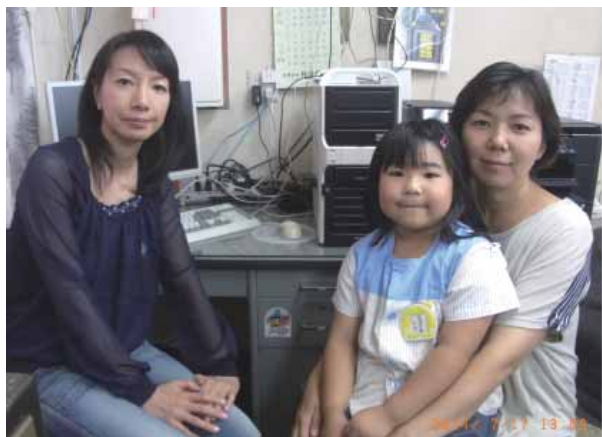


◆ 7月27日(日) 午後5時～6時40分(4時半～入場受付) ◆ 参加費 1,200円(学生 800円)

## 現代座会館・活動日誌

### 新しい事務所スタッフです！

五月から現代座の事務所で柳澤友季子さんと前田なつみさんが事務所スタッフとしてさまざまな仕事をしてきています。有給職員を置けない運営状況なので、この2年ほどは木下がボランティアで経理と事務所、外回りなどの雑用をやってきましたが、このままでは肝心なNPO現代座の活動が続けられないので、何とか事務所スタッフが欲しいと思っていました。



前田なつみさん、柳澤里緒ちゃんと友季子さん

近くに住んでいる人で手伝ってくれる人が欲しいと地域の方に相談したら、子育て中のお母さんが手を上げてくれました。二人いれば何とかやりくりも出来るしということで、柳澤さんと前田さんが平日の午前十時から午後一時まで、交代で事務所にいてくれることになりました。事務所やトイレの掃除から始まってさまざまな雑用があるのですが、お二人はパソコンの扱いに慣れているので、早速、最近の公演のアンケートの入力や資料のデジタル

保存作業をやって貰っています。

お二人に感想を聞いてみたら「楽しい!」、「新しい世界が広がった」という嬉しい返事が返ってきました。

今までは現代座の看板を見て「あそこは何をするところだろう」という感じだったけど、公演のアンケートに書き込まれた感想を打ち込んでたら、本当の舞台を見たくなったのだそうです。

「お芝居の台本の読みや舞台の通し稽古を観るのははじめてで、衝撃的」、「わたしたちの世代は劇といえば下北沢でやってるものと思ってたけど、地元こんな劇団があっただという発見!」

そして劇団資料をスキャンしてびっくりしたそうです。

「創立二年目の、私が生まれるより以前の1966年の機関誌をスキャンしてるけど、これからどうなるのか楽しみ。昔の若者は熱い!」と前田さん。

「この長い歴史のある現代座をもっと多くの人に知ってもらいたい」と柳澤さん。

九月公演の「武蔵野の歌が聞こえる」の衣装の製作も手伝ってくれることになりました。

本当に心強い助っ人です。

### 5月〜7月 活動日誌

- 4月30日 「現代座レポート58号」発送作業
- 5月11日 緑町第二町会総会
- 14日 日本力行会・アリアンサ移住地講座
- 15日 「緑町ふれあいサロン」(定例会)
- 18日 「遠い空の下の故郷」公演・戒法寺
- 25日 「SPレコード雑談会」(定例会)
- 6月4日 「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター会議
- 18日 日本力行会・アリアンサ移住地講座
- 19日 「緑町ふれあいサロン」(定例会)

24日 三階和室エアコン取替工事

29日 「SPレコード雑談会」(定例会)

30日 川崎平右衛門プロジェクト

7月2日 「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター会議

16日 地下ホールへの階段リフォーム

日本力行会・アリアンサ移住地講座

17日 「緑町ふれあいサロン」(定例会)

27日 「SPレコード雑談会」(定例会)

30日 「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター会議

現代座ホール

5月〜6月 シアター青芸 稽古

5月27日 劇団「青果鹿」稽古

6月〜7月 劇団「希望舞台」稽古

6月14〜16日 演劇ユニット「UNBRELLA」稽古

三階小ホール

5月24〜6月01日 ぼんぼん組「べっかんこ鬼」公演

7月3〜5日 りんどうの会・有島武郎短編朗読公演

7月27日 「ふるさとかえりたい」朗読・映像・うたの夕べ

定期使用 二階サロン

毎日曜日 早稲田ラジオスクール(学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・バンビーン

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad熟年講座

追悼 大畑孝子さん

元現代座劇団員・大畑孝子(本名熊倉孝子)さんが2014年5月27日に原発不明癌のため亡くなられました。享年68歳。

大畑さんは1966年に統一劇場に入団、1982年から現代座の母親班「花かご」で活動。

その後、独立して人形劇「花かご」を主宰。「花かご」は今後も所属メンバーが大畑さんの意志を継いで上演活動を継続することです。

## お知らせ

## 合唱構成劇

武蔵野台をひらいた川崎平右衛門

## 武蔵野の歌が聞こえる

共同製作

シニア SOHO 小金井

NPO 現代座

脚本

木村 快

会場 現代座ホール

2014年9月 11 (木)		19:00
12 (金)	14:00	19:00
13 (土)	14:00	19:00
14 (日)	14:00	18:00
15 (祝)	14:00	

参加費 一般：3000円 小中高：1000円

※各回 80名の予約制です。事前にお申し込み下さい。

## 共生の大地・アリアンサ

ブラジルに協同の夢を求めた日本人

木村快著 同時代社刊 (A5版 350ページ)



定価は3780円(税込み)で、書店でもネット通販でも購入できます。現代座では特別価格3000円(税込み)で販売しています。3000円と送料300円を振り込んでいただければ郵送します。

## 公演のDVD・さし上げます

会員の皆様に2014年2月公演「約束の水」のDVDをさし上げております。

過去の作品でも、ご希望の作品をDVDにしますのでお問い合わせください。

## 現代座会館をご利用ください

## ◆地下ホール(地下2階吹き抜け)

空間は15メートル×12メートル×天井高5.5メートル。中ホール並みの吊り物、舞台装置、照明を設置できます。通常は客席部に80席を準備していますが、全面をワンフロアにすることもできます。

## ◆3F小ホール 舞台とグランドピアノ、客席40席。

## ◆2Fの集会室 20～30人。

## ◆1Fのロビー 15～20人。

これらの設備は地域の活動や様々な創造活動に使っていただきたいと思えます。

使用料その他、お気軽にお問い合わせください。

## NPO現代座スタッフ募集

いっしょに創造活動をすすめる仲間を求めています。お芝居をつくる活動に参加してみませんか？年齢は問いません。興味があれば誰でも参加できます。

- ◆芝居の裏方(大道具小道具の制作・衣装)、
- ◆芝居の出演者、
- ◆制作宣伝活動、チラシ等印刷物作成、写真撮影、
- ◆会館管理、経理事務。

気楽に見学においで下さい。

## NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

## ★年会費(現代座レポート購読料を含む)

- 一般会員 3,000円
- 協賛会員 10,000円(1口以上)
- 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座